PosiSoft

# 取扱説明書
# （ポジテクタ6000）

2.12版

**Ｈ　Ｂ　Ｓ**

**株式会社　本田ビジネスシステムズ**

〒221-0843　**横浜市神奈川区松ヶ丘**35-12　**松ヶ丘ビル４**F

**電話：**045-212-4090　　**ファクス：**045-412-6773

**電子メール：**support@hbsl.co.jp



**平成** 19 **年** 2 **月** 22 **日改定**


**＜目次＞**


**はじめに**---------- 1
**はじめてみましょう**---------- 1
**計器のコンピュータ接続及びシリアルポートとの接続**---------- 2
**バッチ名とアプリケーション名の変更**---------- 3
**読み取りデータ／バッチの削除**---------- 5
**注釈入力**---------- 6
**他ソフトウェアへの読取りデータ出力**　---------- 7
**印刷**---------- 9
**PosiSoft　メニュー**---------- １２

## はじめに

**ＰｏｓｉＳｏｆｔはポジテクタ**6000、200、超音波厚さ計（UTG）、露点計,密着力試験器を使用して得られる測定値をダウンロード及び解析するためのツールです。測定値をPosiSoftにダウンロードすると、解析のためのファイルに格納され、ヒストグラム、データチャート・グラフ、および統計情報を作成します。本マニュアルはポジテクタ6000に関連した機能に限定して記載しています。

## さあ、はじめてみましょう

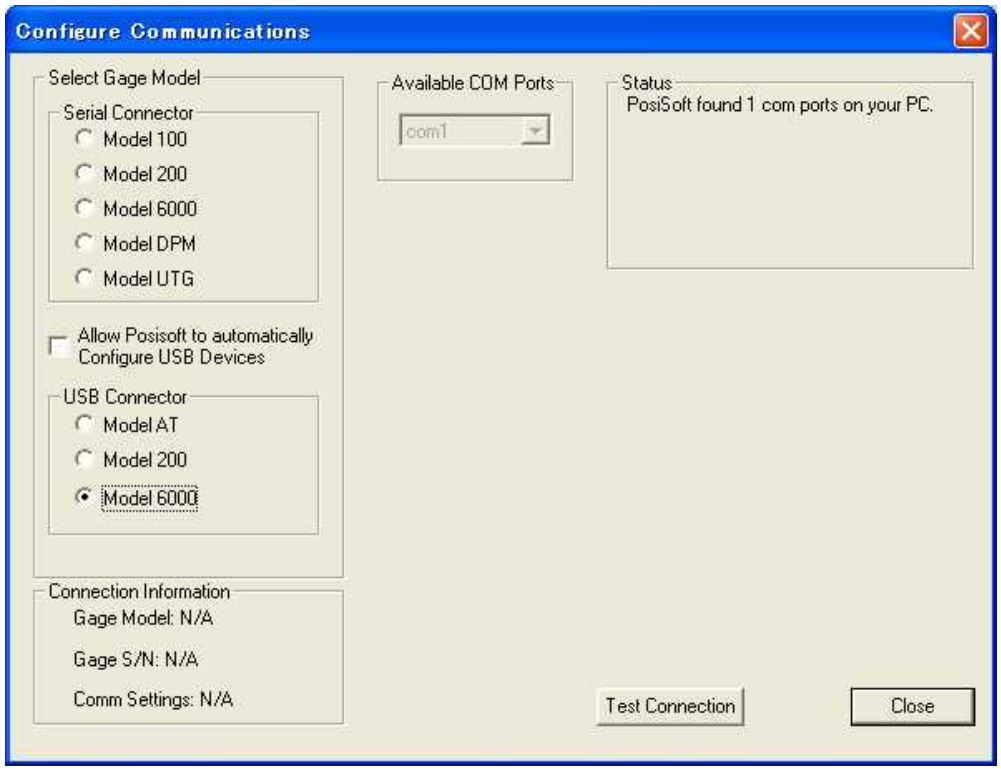
PosiSoftを使用するためには､次のステップに従ってください。

・PosiSoftを実行します。
･添付のケーブルでコンピュータに接続します。
･Configure（構成）プルダウンメニューのGage（ゲージ）オプションから接続ポートを選択します。
・計器のスイッチをオンし､計器との通信を始めます。
・Batch（バッチ）プルダウンメニューからDownload（ダウンロード）を選択します。
・　読みとり終了後、File（ファイル）プルダウンからSave（保存）を選択します。



## 計器とコンピュータとの接続

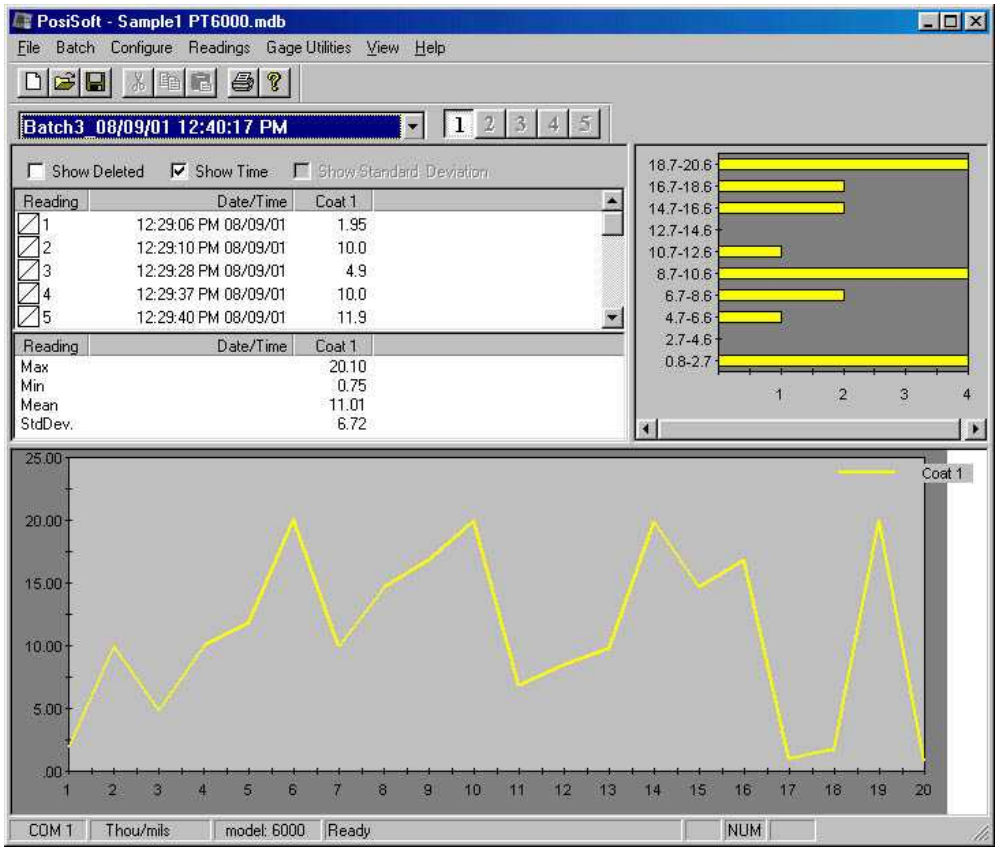
ポジテクタ6000は附属のUSBケーブルを使用して、USBポートを介してコンピュータと通信を行います。Configure(構成)メニューからCommunications(通信)を選択し、USB Connector下のPosiTector6000を選択してください。次に接続確認のため、Test Connectionボタンをクリックしてください。通信が行われると、Connection Information(接続情報)欄にポジテクタ6000のシリアル番号が表示されます。
注）次回接続時、自動的にポジソフトの構成を行うには、Allow PosiSoft to automatically Configure USB devicesをチェックしてください。




計器とコンピュータとの接続設定画面

## バッチのダウンロード：

Batch（バッチ）メニューから、Download（ダウンロード）を選択します。
適切な計器モデルを選び、指示に従ってください。



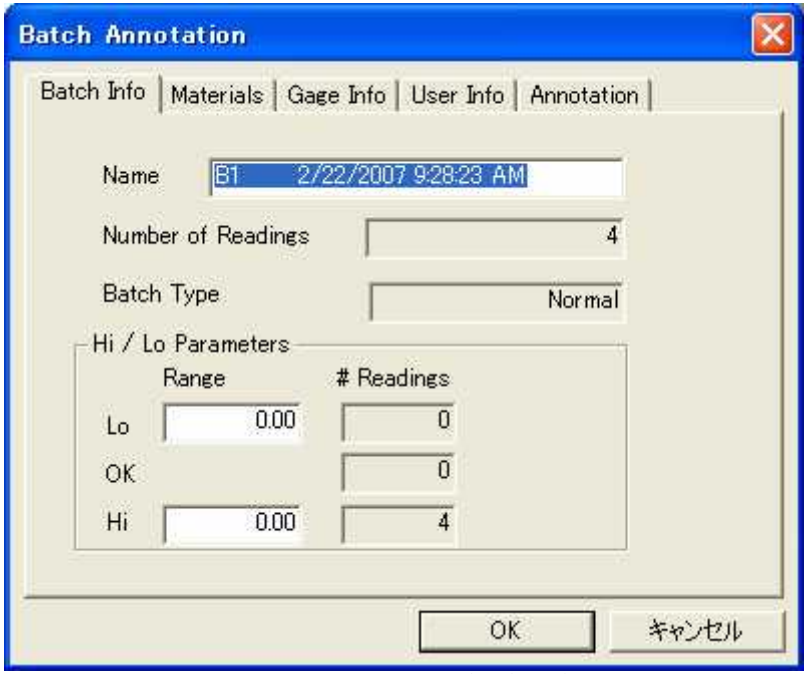

バッチダウンロード後の画面

## バッチ、ユーザ、部材、アプリケーション名の変更：

PosiSoftに関するユニークな名前をバッチに割り当てることができます。そうすることにより、カスタマイズされた概要をみることができます。同様に、Application Name（アプリケーション名）、ユーザ名、および部材名も割り当てることができます。

Batch(バッチ)メニューでAnnotate(注釈)を選択することによって、
Batch Annotation(バッチ注釈)ウィンドウがポップアップします。バッチ名を変えるには、単にBatch Info(バッチ情報)タブのName (名前)ボックスに名前を設定するだけです。また、Batch Annotation（バッチ注釈）ウィンドウで、適当なタブを選択することによって、User Info（ユーザ情報）、Material（部材情報）、およびAnnotations（注釈）を定義、修正、変更することができます。Gage info（計器情報）タブは計器モデルなどの計器情報を表示します。






Annotate(注釈)選択時のﾎﾟｯﾌﾟｱｯﾌﾟ画面

-

**読取データ/バッチの削除**

**個々の測定値：**

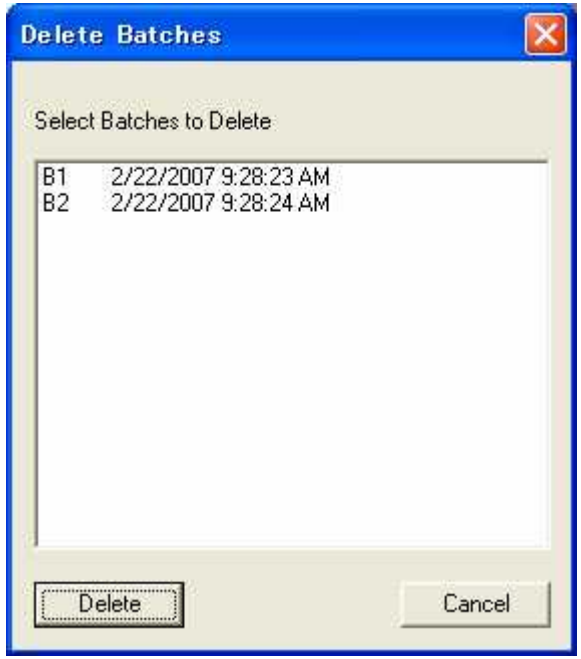
**個々の測定値を削除するために、測定値上でマウスボタンを右クリックし、**delete**（削除）を選択します。**

**統計情報は、これを反映して、自動的に更新されます。**

**測定値の全バッチ：**

**全バッチを削除するために、メインメニューから**Batch**（バッチ）を選択し、**delete**（削除）を選択します。**

**次に、削除したいバッチまたは一連のバッチを選択し、**delete**（削除）をクリックします。**



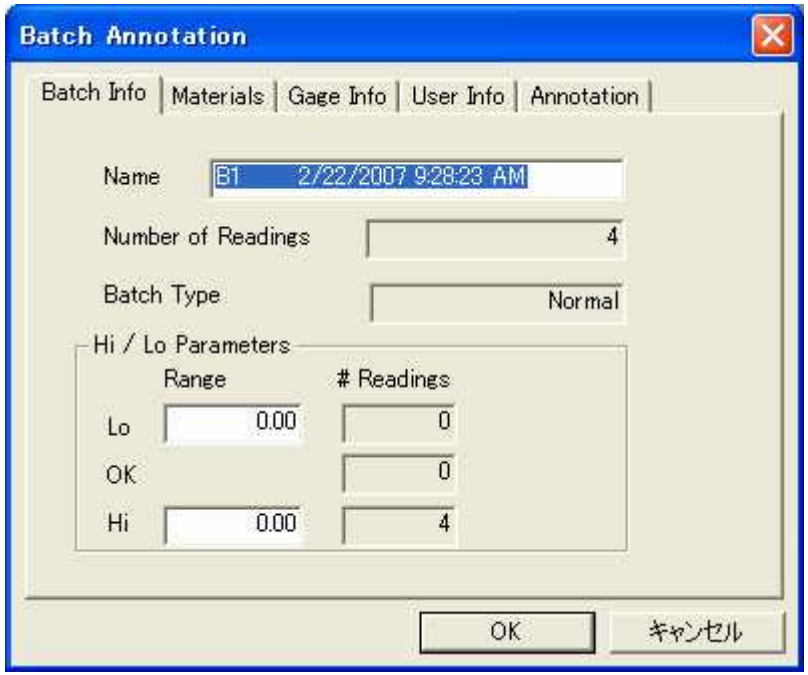

delete**（削除）選択時のポップアップ画面**



**注釈の入力**

Batch**（バッチ）メニューで、**Annotate**（注釈）を選択、それからバッチ名を変更し、次に進みます。**

**選択したバッチの注釈を見るには、**Annotation**（注釈）タブをクリックします。**

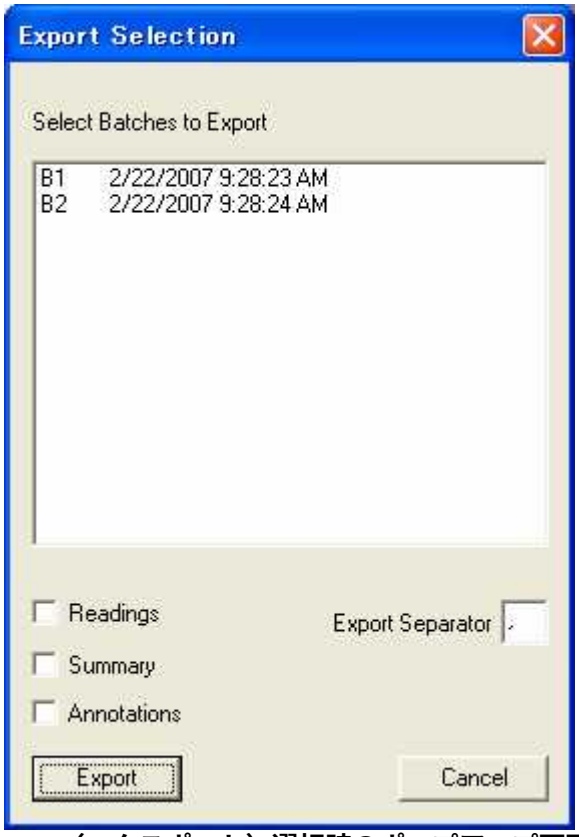


**他ソフトウェア（Xcel,Wordなど）への読取データ出力**

**Ｂａｔｃｈ（バッチ）メニューの使用：**

**個々あるいは一斉にバッチ情報を他のソフトウェアプログラムファイルに出力することができます。バッチを出力するには、**PosiSoft Batch**メニューで**Export**（エクスポート）を選択します。**

**表示されるウィンドウで、出力したい**Batch**（バッチ）をハイライトさせます。出力される**Readings(**測定値**)、**Summary(**まとめ**) 、**Annotation(**注釈**)あるいはすべての情報のボックスを選択します。測定データを分離するために**Export Separator(**エクスポート セパレータ**)ボックスに文字を入れることができます。**




Export**（エクスポート）選択時のポップアップ画面**

**デフォルトのセパレータは、カンマ（，）です。ヨーロッパの**number format(**数字形式**)**を使用する場合、小数点を表すカンマと混同しないよう他のセパレータを選択することをおすすめします。**

Export(**エクスポート**)**を押下すると、**Save As(**保存**)**がポップアップします。インポートされるソフトウェアに関係した拡張子をファイル名とともにタイプします。**



**（例えば、テキストファイルには*****.txt**、**WORD**には*****.doc , Excel**のようなスプレッドシートアプリケーションに対しては*****.xls**）**

**以下は**Excel**形式にて出力した例です。**

**B2 2/22/2007 9:28:24 AM**
**Batch Readings**

| Reading | Time & Date | Coat 1 (µm) |
|---|---|---|
| 1 | 3:50:03 PM 3/16/2000 | 53.8 |
| 2 | 3:50:05 PM 3/16/2000 | 51.3 |
| 3 | 3:50:08 PM 3/16/2000 | 54.2 |
| 4 | 6:19:36 PM 3/16/2000 | 50.4 |

**Batch Summary**

| | |
|---|---|
| Max | 54.2 |
| Min | 50.4 |
| Mean | 52.43 |
| StdDev. | 1.86 |

**Batch Annotations**
**Gage Model: 6000FN3**
**Gage S/N: 606159**
**Probe Model: FN**
**Probe S/N: 105646**
**User:**
**Part:**
**Substrate:**

**キーボード、マウスの使用：**

**他ソフトウェアへ出力するデータに対しての代替方法は、**Shift(**シフト**)+**矢印キー**（または、マウス）でデータをハイライトさせ、次に選択するソフトウェアへコピー、貼付けを行います（マウス右クリックでの貼付）。**

**チャート**(Chart)**：**

**マウスとクリップボードを使用することによって、**PosiSoft**に表示されるチャートを他のソフトウェアにコピーすることができます。**

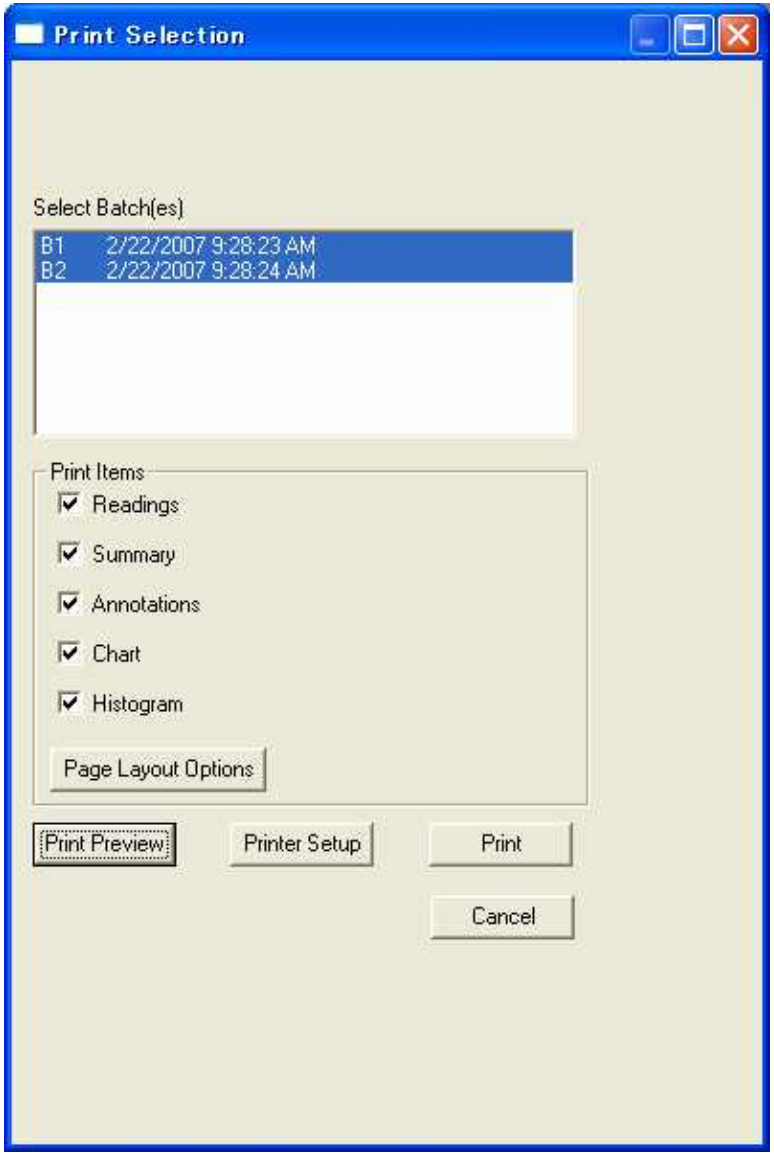
DDE**リンク：**

**測定が行われた後、測定値と情報を直接、リアルタイムに他のソフトウェアにリンクすることができます。**

**操作方法は**Readings(**測定**)**メニューを参照してください。**

**印刷**

**印刷を始めるには、「**Standard Toolbar**（標準ツールバー）」で印刷アイコンをクリックするか、**File**メニューで、**Print**（印刷）を選択します。**
**プリンタのセットアップウィンドウがポップアップしたら、プリンタ、印刷方法を選択します。**




**印刷設定画面**



**印刷の選択**:

Print Selection(**印刷の選択**)**ダイアログの**Select Batch**（選択バッチ）ボックス上で、印刷したい**1 **バッチまたは複数のバッチを選択します。**

**印刷したいバッチを単に、ハイライトさせることによって、それらを選択することができます。**

Print Items(**印字項目**)**リストで、印刷するバッチの情報を選びます。**

- Readings**（測定値**)
- Summary(**まとめ**)
- Annotations(**注釈**)
- Chart(**チャート**)
- Histgram(**ヒストグラム**)

Page Layout Options(**ページレイアウトオプション**):

Page Layout Options(**ページレイアウトオプション**)**ボックスをクリックします。**
**このウィンドウでは、ドキュメントのヘッダーとフッターを設定することができます。**

**それらを設定するには、挿入したい位置のボックスにヘッダーとフッター名を設定します。**
**印字する各バッチに対して、ヘッダーとフッターを変更させることも可能です。**

**例えば、次のようにセットアップした場合：**

1. **ページの先頭の左欄にヘッダーとして、日付**
2. **ページ下部の中央にページ番号**
3. **多重カラム（複数の測定データ）**
4. **異なるページにチャートとヒストグラム(印字のスペースが大きくなる)**

**上で説明されたように印刷するためには､以下のようにセットアップします。**

1．Header left(**ヘッダーの左欄**)**に**%D**を設定**
2．Footer Center(**フッター中央欄**)**に**%d**を設定**
3. Multi column output**のタイトルのボックスを選択**
4．Chart and Histogram on same page**オプションのチェックをはずします。**

Printer Setup(**プリンタセットアップ**):

**プリンタ、紙サイズ、および位置を選択します。**

Print Preview(印刷プレビュー)：
印刷されるページのプレビューを表示します。

印字品質:
チャートとグラフの印字に問題がある場合、、次のステップ（Windows95,98を使用している場合）で、チャートとグラフの印字品質を改善できます。
･マウスで、Start（スタート）アイコンをクリックします
･Settings（設定）メニューを選択します
･Printers（プリンター）メニューをクリックします
･使用したいプリンタファイルのハイライト及びオープンします
・Printer（プリンタ）プルダウンメニューで、Properties（プロパティ）を選択します

・Graphics（グラフィック）ファイルをクリックします
・Use raster graphics（ユーザ ラスター グラフィック）を選択、次にApply（適用）クリック､さらに「OK」をクリックします
･「Printer」と「Printers」ファイルのクローズします



PosiSoftの各メニュー
メニューは以下のとおりです。

File（ファイル） メニュー
Batch（バッチ） メニュー
Configure（構成） メニュー
Readings（測定） メニュー
Gage Utility（ゲージユーティリティ）メニュー
View（表示）メニュー

**File（ファイル） メニュー**
New（新規作成）
新しい無題のファイルを作成します。

Open（開く）
既存のファイルを開きます。 MDB拡張子ファイルのみ、表示されます。

Save（保存）
ファイルにアクティブなデータを保存します。データファイルは、指定されない場合、MDB拡張子で保存されます。

Save As（名前をつけて保存）
拡張子が指定されない場合、.MDB拡張子で、アクティブなデータを保存します。

Print（印刷）
プリンタの選択、あるいは構成のために､Windows Print Setupを動作させます。

Exit（終了）
プログラムを終了します。

**Batch（バッチ） メニュー**
Download（ダウンロード）
計器のメモリから測定データをダウンロードします｡計器が接続状態の場合、PosiSoftは計器のバッチデータをダウンロードします。

Annotate（注釈）
バッチ名､アプリケーション名､Hi/Ｌｏ limits（上下限）を変更します｡Annotations(注釈)と同様にBatch(バッチ)とApplication Names(アプリケーション名)の変更も参照してください。

**Ｓｅｌｅｃｔ** Current(**現在の選択**)
**バッチの切り換えができます。現在のバッチは、**PosiSoft**ツールバーに表示されています。**

Export(**エクスポート**)
**現在のファイルを**Window **クリップボード、または、ユーザの指定されたファイルに出力します。**
Export Readings(**読取データの出力**)**を参照してください。**

Delete**（削除）**
Delete Batches**（バッチの削除）ウィンドウで選択されたバッチを削除します。**
**Configure（構成） メニュー**
Communications**（通信）**
**接続ポートを設定するために構成ウィンドウを開きます。**Test Com Port(**テストＣＯＭポート**)**をクリックすることによって、選択されたポートをテストすることができます。**
**テスト機能を使用するとき、計器が動作状態にあることを確認してください。**
**計器とコンピュータとの接続を参照してください。**

Units(**単位**)
**単位を**Thou/**ミルからミクロンに切替えます。あるいはミクロンから**Thou/**ミルに切替えます。**

Chart Options(**チャートオプション**)
PosiSoft**の下部ウィンドウに表示されたチャートは、収集されたデータを表示する３種類のレイアウトがあります。それぞれの厚さ測定データはＹ軸に、測定データ数はＸ軸に表示されます。** 1**つ以上の被膜がある場合、それぞれが異なった色で表されます。**
**・折れ線グラフ：各測定データは点によって示されます。点は、接続されているので、容易に傾向を見つけることができます。**

**・棒グラフ：このモードでは、測定データはバーで表示されます。多重被膜の場合、バーは、重なりの異なった色となります。**
**・積み重ね表示棒グラフ：棒グラフと同様、多重測定データの場合、積み重ねられます。**

**ただ一つの被膜しかないと、**Bar**モードと**Stacked**モードの間には、違いはありません。**



Histogram Configuration(**ヒストグラム構成**)
Histogram Configuration)(**ヒストグラム構成**)**メニューを選択すると、ヒストグラムの測定データ表示方法を変更させるダイアログが表示します。**
**最初に、ヒストグラムは、測定データ値とその相違に応じて、ｂｉｎｓ（バー）の数を計算します。ヒストグラムで表したいバーの数を入力することによって、異なったバー数をもつことを選択できます。変更をアクティブにするためには、**Force all histograms to use this many bins
**チェックボックスをチェックする必要があります。それを行った後、**PosiSoft**は設定したバー数を有効とします。**

Number Formats**（ナンバー フォーマット）**
**数値の形式を変更します。**

Date Formats**（日付フォーマット）**
**テーブルの**Date / Time**欄のフォーマットをカスマイズする際に使用します。**

Language**（言語）**
PosiSoft**メニューオプションを必要な言語に変えます。**

**Readings（測定） メニュー**

Listen to Gage（計器読取り）

**これは計器へのリアルタイム接続です。測定データが計器によって取得されたとき コンピュータモニター上に表示されます。**

DDE Link (Model 6000, 100, UTG and Dew Point Meter)

**このオプションは、測定データが計器によって取得された時、**Microsoft Excel**などの スプレッドシートソフトウェアプログラムに、リアルタイムでの表示を行います。 次の方法で、リンクを初期化し、設定を行います。**

**・**Readings**（測定）プルダウンメニューの**Listen to Gage(**計器読み取り**)**メニューで適切なモデルを選びます。**

**・**Listen to Gage**（計器読み取り）ウィンドウで、**DDE**ボックスをクリックします。**

**・適切な「コピー」方法を選択します**

Copy data string ・・・・・・・・ **モデル**6000、100、UTG、**および**Dew Point Meter

**「**Copy data element**」** ・・・ **モデル**100、UTG、**および**Dew Point Meter

- **指示プロンプト（**Now go to the destination and select Paste Special from the Edit menu**）が表示しましたら、ＯＫを押下し、続いて、スプレッドシートセルへ貼りつけます。**

**・**Listen to Gage**（計器読み取り）ボックスが開いている状態で、計器の読み取りを行います。**

**・測定データは、**Listen to Gage**（計器読み取り）ボックス、および計器の**LCD**同様、スプレッドシートセルに表示されます。**

**・**

**計器による別の測定を行ってください。後の測定が前の測定を置き換えますので注意してください。**

**スプレッドシートの後の行上に多重測定データを表示させたい場合、スプレッドシートにおける「マクロ」プログラムを使用する必要があります。**

**表計算プログラムに関してはマニュアルを見てください。**

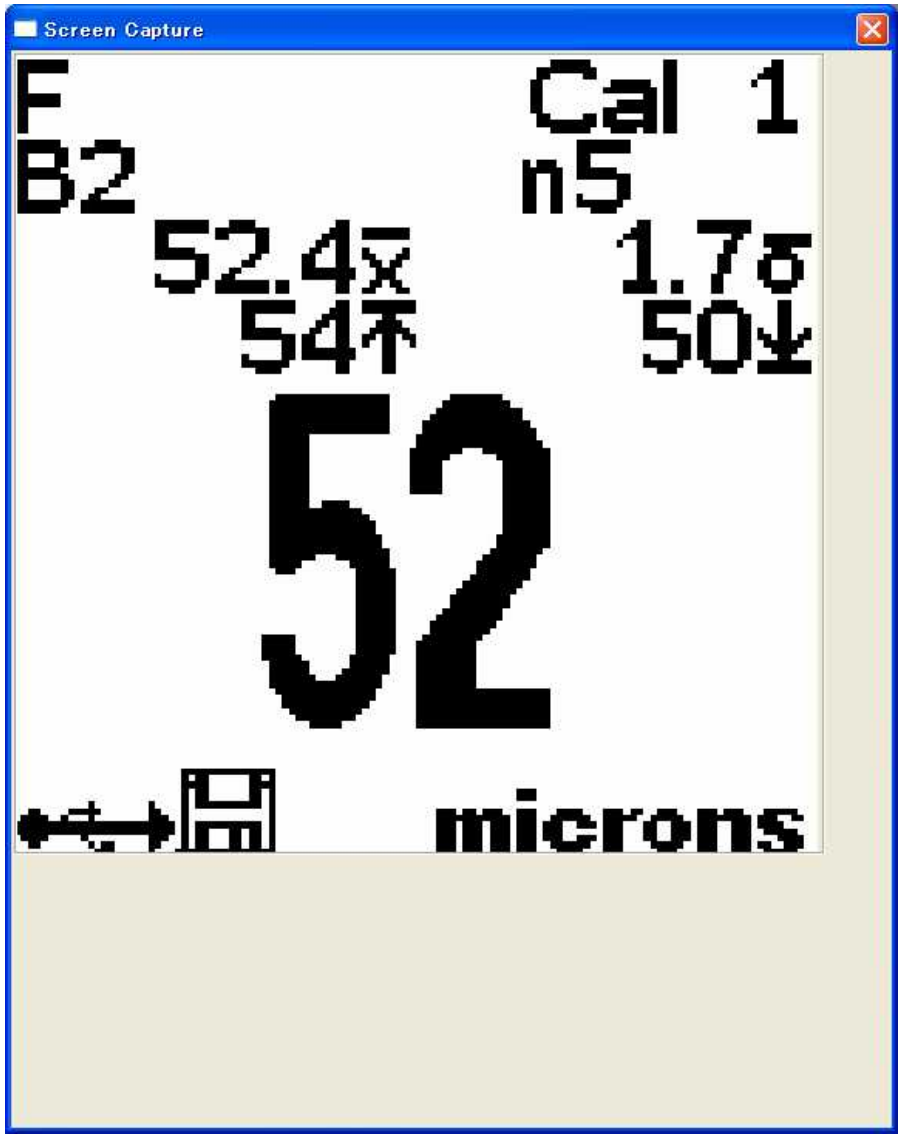
Listen to Gage**ウィンドウのスクリーンキャプチャーは キーボードの**"Alt" & "Print Screen"**を同時に押下することにより、実施できます。**



**Gage Utility（ゲージユーティリティ）メニュー**

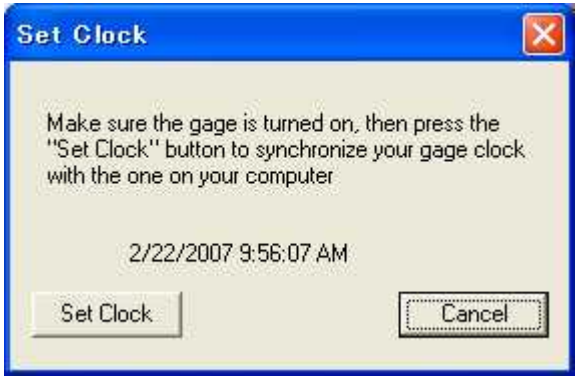
Screen Capture(**スクリーンキャプチャー**)

**この機能は、計器の液晶ディスプレー画面表示をコンピュータのクリップボードにキャプチャーします。表示内容がクリップボード上にいったん取得されると、** Microsoft Word、Excel**などのような他のソフトウェアに対して、切り取り、コピー、貼り付けができます。例えば、レポートと印刷として。**Utilities(**ユーティリティ**)**プルダウンメニューで、**Screen Capture(**スクリーンキャプチャー**)**を選択します。指示に従って、計器の液晶ディスプレー画面表示をダウンロードします。**



Set Clock(**時計設定**)

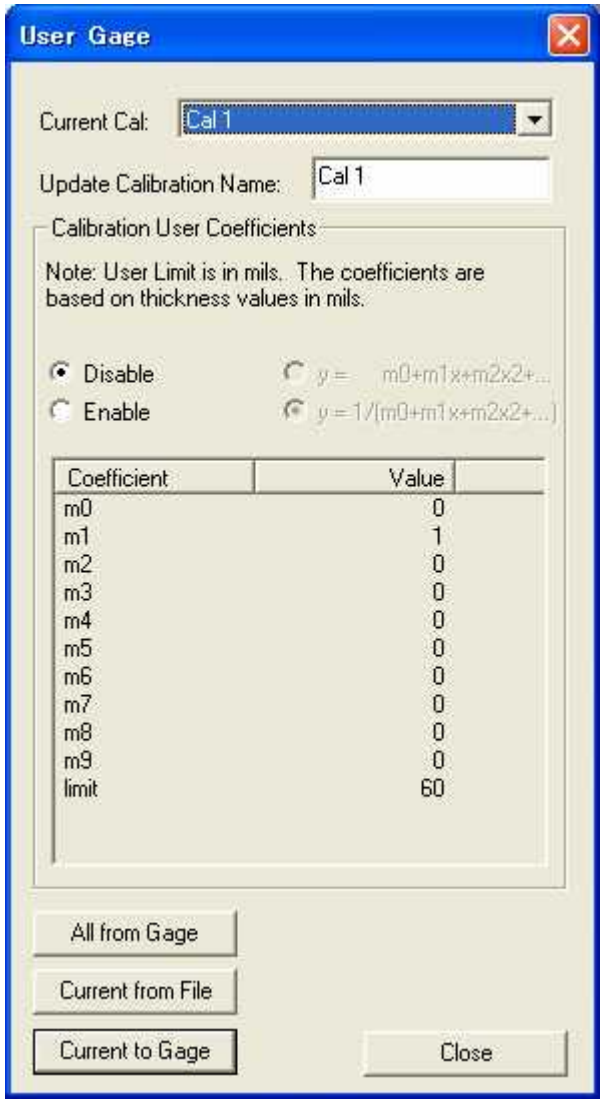
Set Clock(**時計設定**)**を使用して、計器の時計にコンピュータ上の現在の時間を設定します。**






User Gage(**ユーザ計器**)

6000User Gage**（ユーザ計器）へユーザ係数を表示、ダウンロードするためにこの機能を使用します(この機能は**6000/U Gage**のみです)。詳しい情報に対しては、代理店に連絡してください)。**



**View（表示）メニュー**
**ウィンドウの標準メニュー。このメニューで**PosiSoft**の表示をカスタマイズできます。**

Standard Toolbar(**標準のツールバー**)
Standard Toolbar(**標準のツールバー**)**を有効にするか、または無効にします。**

**8**

PosiSoft Toolbar(PosiSoft**ツールバー**)
**画面に表示される**PosiSoft Toolbar**を有効、または無効にします。有効にすると、現在のバッチとそのバッチに関係した被膜の層数が表示されます。**

Reading Toolbar(**測定のツールバー**）

**画面に表示される**Reading Toolbar**（測定のツールバー）を有効、または無効にします。**
**有効にすると、**Show Time**（時間表示）**, Show Deleted**（削除表示）**, Show StandardDeviation toggle**（標準偏差トグル）ボタンが表示されます。**

Histogram**（ヒストグラム）**
**ヒストグラムの表示有無を示します。**

Status Bar**（ステータスバー）**
PosiSoft**の設定と現在の状態を表示します。ステータスバーは**PosiSoft**の下部にあります。**
**接続ポート、どんな単位が使用されているかに関するユーザ情報などがあります。**



**ユーザモード**
＜User Gage(**ユーザゲージ**)＞
**通常、ポジテクタ** 6000**は以下の厚さを測定します。**
**･磁性母材上の非磁性被膜**
**･導体母材上の不導体被膜。**
1**点及び**2**点校正調整は、特殊な表面、または、特殊な測定範囲の測定に有効な機能です。**
**以下のような特別な場合、ユーザモードが有効です。**
**・ポリマーを塗った鉄、ニッケルコーティングのような磁性あるいは非磁性母材上の磁性被膜**
**・コンクリート上への亜鉛溶射のような非導電性母材上への導体被膜**

**ポジテクタ**6000 (**メモリモデルのみ**)**ユーザモードは、ユーザ定義の出力に標準**6000**測定データを変換するための９次多項式を使用した関数を定義できます。**
**この機能は、表示ルーチンとして機能して、計器の標準操作に影響しません。**

**多項式は以下の形式のうちのいずれかです。**

y=1/(m0+m1*x+m2*x^2…+m9*x^9)
y=(m0+m1*x+m2*x^2…+m9*x^9)

where:
m0、m1、m2･･･m9**は範囲**+/-1.18E-38**から**+/-3.39E+38**範囲でのユーザ定義浮動小数点です。** (6**桁の有効数字**)

x = Gage reading prior to post processing.
y = User defined reading.

Activating User Mode(**ユーザモードのアクティブ化**)
**ユーザモードを有効にするには、メニューバーから**Gage Utilities(**ゲージユーティリティ**)**を選択し、次に**User Gage(**ユーザゲージ**)**を選択してください。**PosiSoft**は自動的に計器の現在のユーザ較正設定をダウンロードして、表示します。**
**以下のオプションが表示されます。**

Current Cal(**現較正**)
**・使用される現在の較正を選択します。**

Update Caribration Name(**アップデート較正名**)
**・デフォルト較正名（**Cal1)**をより分かりやすい名前（例えば、**Box4)**に変更できます。名称は９文字を超えることができません。**

Caribration User Coefficient(**較正ユーザ係数**)
**（1つを選択）**
Disable(**無効**)--**ユーザモードの機能を無効にします。ユーザ係数は使用されません。**
Enable(**有効**)--**ユーザモードの機能を有効にします。ユーザ係数は使用されません。**

(**1つを選択**)
・y=1/(m0+m1*x+m2*x^2…+m9*x^9)

**-不導体母材上の導体被膜と非磁性母材への磁性材料被膜に対する逆多項式**
・y=(m0+m1*x+m2*x^2…+m9*x^9)
**-磁性母材への磁性材料被膜に対する通常の多項式**

All from Gage**（全計器）**
**現在の計器設定を確認するために**All from Gage**（全計器）ボタンを選択します。現在の較正設定は計器から**PosiSoft**へダウンロードされます。**

Current From File**（ファイルロード）**
**コンピュータ上のテキストファイルからユーザ較正係数をロードします。テキストファイルは、以下の形式です。**

LINE1: ########□□□ **最初の行はｷｬﾘﾌﾞﾚｰｼｮﾝの名前を含んでいます。**
LINE2: ########□□□ m0
LINE3: ########□□□ m1
LINE4: ########□□□ m2
LINE5: ########□□□ m3
LINE6: ########□□□ m4
LINE7: ########□□□ m5
LINE8: ########□□□ m6
LINE9: ########□□□ m7
LINE10: ########□□ m8
LINE11: ########□□ m9
LINE12: ########□□ **表示される上限**
□**この数字より大きい多項式を適用した後、取得される測定データはこの数字と同様に表示されます。**

Current To Gage**（計器への送信）**
**現在表示された較正設定を計器へ送ります。**

**Ｈｉ　Ｌｏ　Ｍｏｄｅ（上下限）　モデル６０００のみ**
**読み取りデータが**PosiSoft**ソフトウェアに移動後、上下限を選択するためにこのオプションを使用します。**



**上下限をアクティブにするために：**
**・**PosiSoft**メインメニューから**Batch(**バッチ**)**を選択し、ドロップダウンボックスから**Annotations(**注釈**)**を選択する**
**・**Batch Info(**バッチ情報**)**タブに上下限の値を入力する。上下限読み取りデータの値が選択された数値の右側に表示される。各々の読み取りデータは、ユーザ定義された上下限範囲内かチェックされる。チェックの結果に従って、読み取り後、ＨＩ，ＯＫあるいはＬＯが表示されます。また、レポートにも印刷されます。